理研会報

発行
印教研　理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町94801

一九八九年　平成元年を迎えて

印教研理科研究部長　中村　欽哉

誰でも年が改まると新しい気持ちになり、今年こそはと何かひとつふたつは努力目標を定めるものであるが、一年が経過してみるとあまり実行がともなわず、がっかりとするものである。

今年は特に、年が改まってから天皇陛下が崩御され、元号まで新しくなり、私たち昭和一けたの人間にとっては、ことに深い感慨を覚える今日この頃である。

新しい元号は、「平成」に決まったが、成田に住む者にとっては市民憲章の第一章が「親切な心で平和な成田をつくりましょう」で成田市の発展をも希求する良い元号であるものといえましょう。

さて、本題に入るが、昨年一年間、会員の皆さんの努力により、本研究部も着実な歩みを続けてこられたことを感謝申し上げたい。

教研集会の提案にしても、年々地についた実りの多い実践研究が多くなっていると思うし、公開研究会も、授業実践を重点にし、科学の方法を身につけさせるための努力の積み重ねが中心となっての研究がなされていると思う。

一方、理科作品展では、郡展から出品された作品が、ここ数年、何点かは最高の賞を得ているとはいうものの、工夫工作にせよ、科学論文にせよ、積み重ねと努力の不足からか、また、アイデアの枯渇からか、良い作品が次第にみられなくなったような感じがする。特に、中学校でこの傾向が多く見られるようだ。中学校は、教科担任制であるから、この点、特に中学校理科教師の奮起を期待したいものです。

あと十二年経つと、二十一世紀を迎える。この時代に、今の小中学生は社会に出て活躍しはじめる年令になる。創造力のある、独創性を持った人間に育てるためにも私たちの責任は大きいものがあると思う。会員一同、お互いに切磋琢磨し合いながら、この一年を頑張りたいものである。

今年もよろしくお願いします。

研修報告

千教研理科部会研究発表大会　香取大会　参加報告

栗山小学校　沼田　正信

新しい理科教育の重点には、(1)直接経験の重視、(2)問題解決能力の育成、(3)科学的な物の見方、考え方の育成、が上げられていますそれらを受け「自然とのふれあいを重視した理科教育」という主題にそって、県下の先生方の研究発表大会が進められました。

会場校の境成小学校は、事象提示や思考過程を大切にする記録方法の工夫、環境整備を中心に研究が進められ、授業展開では、その研究にそったきめ細かい指導が行われていました。

私も、午後、地球と宇宙分科会において「意欲的に問題解決に取り組む理科指導」という主題で、五年生の「星とその動き」を通し提案させて頂きました。わかりやすい観察・記録方法の工夫を中心に、自作スライドを用いながら実践記録を発表しました。研究にあたり、天候不順等から実践に苦労しましたが、講師の先生をはじめ各先生方からご指導を頂き、本当に良い勉強になりました。ありがとうございました。

西中学校　本橋　茂次

佐原中学校を会場に研究発表会が開かれました。三名の先生方が授業を展開しておりましたが、自作教具を使った活発な授業でした当日の授業に使用した以外の自作教具が廊下に展示されており参加された先生方が熱心にメモをとり設計図を書いたり、材料等を記録して、自校に戻り自作しようとする意欲が感じ取れ、感心しました理科室には、パソコンもセットされており、生徒がはじきだした数値をグラフ化して見せる。積極的に新しい物を取り入れたり、自作教具を共同開発しようとする熱意が見られました。

研究発表は、生物領域に出席しましたが、各発表者とも精力的に研究を行っており、非常に勉強になりました。工夫さえすれば、道端にある小石も雑草も教材として利用出来るものであり、各地区の先生方がお互いに情報交換し合えば、もっともっと内容のある授業になるものであると感じました。

全国教研に参加して　三里塚小学校　飯田　隆雄

十月二十四日から二十六日までの三日間、北海道の札幌で第37次全国教研が行われ、参加してきましたので、ご報告いたします。

第五分科会、理科教育では全部で58のレポートが報告されました今次の集会では、小分科会が設けられず、テーマごとの集中討議で行われました。まもなく、新指導要領が出され、生活科が実施されようとしている今、生活科の問題と低学年の自然教育のあり方が特に話題になりました。低学年では人間成長の基礎を作る大事な時期だけに、いかに自然についての学習を積み重ねるかが問題にされました。自分の発表は、二日目の「生物をどうとらえていくか」の授業の工夫ということで、野草観察ガイドブックを使った実践を報告しました。

緊張した三日間でしたが、大変参考になり、刺激を受けました。

第三十八次教育研究集会（県教研）報告

小学校分科会に参加して　根郷小学校　小山　成志

県教研小学校理科の研究主題は(1)よくわかり、児童に楽しさを抱かせる指導法(2)地域の自然をふまえ、正しい自然観を育てる理科教育という二点です。この主題をふまえ、各支部から討議が重ねられ精選された実践報告がなされましたどれも、現場の教師だから提案出来るものばかりでした。

山武支部では、理科新聞を一人ひとりの児童に書かせ、意欲化と観察眼を養わせたり、千葉支部では、喜んで長期観察学習に取り組む子どもを育てるために、常に教師が疑問や助言、安易な操作で観察記録が残せる教材教具の開発に取り組んだ提案でした。他支部においても地域の自然を生かした指導の発表でした。どの提案も、児童に意欲的に楽しく継続的に学習に取り組んでいけるかというものばかりで大変勉強になりました。

中学校分科会に参加して　中台中学校　成毛　良次

「物理・化学教材の効果的な指導のあり方」では、磁界の固定法分子モデルによる指導等、三テーマの実践報告がありました。

「自然を大切にした地学・生物教材の指導のあり方」では、香取支部からの微生物による有機物の分解の実践が高い評価を得ていました。また、印旛支部からの「エネルギー概念の指導」は、やはり一・二分野でのエネルギーの定義が問題となりました。

「意欲関心を大切にした指導法の工夫」では、夷隅支部から、学習内容を基本・発展的なものに分け、一斉と個別・班別学習とにカリキュラムを編成した実践が発表され、生徒の主体的な取り組みと共に高い評価を得ていた。

最後に助言者より、今後、生徒の能力を引き出し、それをどの方向に伸ばしたら良いかを考えてほしいと助言があった。